

深謝する次第である。

*Sicyos angulatus* Linnaeus, a native of North America, was introduced to Japan about thirty years ago as a noxious naturalized element. At present, this troublesome weed has generally well-established in sunny moist places along the river banks. Recently, plants with spineless fruits have been found among the populations of normal forms in Mie Prefecture, Central Honshu, in 1977 by Mr. H. Ohta.

*Sicyos angulatus* Linnaeus, Sp. Pl. 1013 (1753).

forma **ohtanus** Asai, f. nova.

Fructus espinosus, cetero ut forma typico.

Nom. Jap. Togenashi-arechiuri (nov.).

Hab. On sunny moist sites along river banks of Mitakigawa, Yokkaichi-city, Mie Prefecture, Central Honshu (H. Ohta, Oct. 8, 1978—Typus in TI).

(東京歯科大学)

□木下奎太郎：百花譜 上下，872+5 pp. 1979，Ⅲ．岩波書店，東京．¥58,000．著者は太田正雄医学博士で，同博士が昭和18年3月から終戦の直前，すなわち20年7月までの間に，日記のようにして描かれた植物画872枚の丁寧な複製版である。抄録者はたまたまその植物の同定をたのまれたが，じつに潑刺と，しかも要点をつかんでスケッチされているのにしばしば打たれた。大体東京，伊東，軽井沢，それに一回中国へ渡っている。あのはげしい戦争のさ中にこのような見事な図が日々描かれて行ったということは，日本人の性質のよい一面であると考えたいのである。(前川文夫)

□石戸 忠：新しい植物検索法，合弁花類篇 120 pp. 1979．ニューサイエンス社，東京．¥750．1977年に出版された離弁花類篇の続篇で，5～49頁が検索表，50～120頁が用語解説となっている。前篇にくらべて記号の使用をひかえて言葉による表現を多くとり入れたことと，検索論理がよりスッキリしてきたことによって，使い易さの点で大幅な進歩がみられる。この種の検索法の開発は今後次第に必要性が高まるものと考えるので，更に便利な続篇を期待したい。草本篇であることを表示すること，検索記号の説明を巻頭にまとめてつけることを希望する。(金井弘夫)